

# 米類が下がっても食料全体は下がったのか

研究報告書／2026年9月7日

## 要旨

2025年基準の参考指数で2026年7月を前年同月と比べると、総合は1.95%、食料は3.53%上昇した。米類は-11.57%だった。米類の下落だけでは食料全体の下落を意味しない。

## 1. 目的と対象

公表表の集計値について期間と分母をそろえて比較した。2025年平均を100とする全国の参考指数。2025年1月～2026年7月を抽出し、2025年7月と2026年7月を同じ基準で比較した。小数第3位までの原表から独自に計算した変化率を使用。

## 原表の位置と選択理由

CSVの1行目が類・品目名、3行目が符号、7～25行目が2025年1月～2026年7月。総合はB列、食料はC列、米類はE列。2025年7月は13行目、2026年7月は25行目。総合・食料・米類を選んだのは、全体とその内訳で変化の方向が異なるかを調べるため。2025年基準内で利用できる直近の同月比較を使用した。

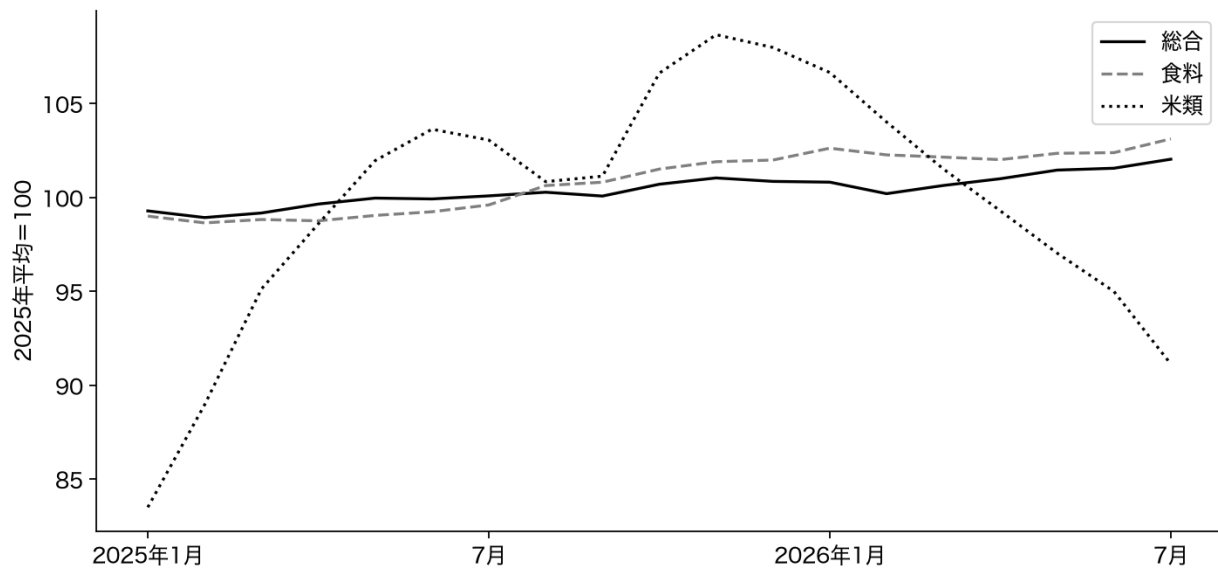
## 2. 算出方法

前年同月からの変化率＝（2026年7月参考指数÷2025年7月参考指数-1）×100。小数第3位の参考指数を使った独自計算値であり、公表率そのものを転記したものではない。表示時だけ丸めている。欠測のゼロ置換と推定補完は実施していない。

## 3. 計算結果と原表の照合

| 項目 | 2025年7月指数 | 2026年7月指数 | 再計算変化率  |
|----|-----------|-----------|---------|
| 総合 | 100.088   | 102.039   | 1.95%   |
| 食料 | 99.605    | 103.122   | 3.53%   |
| 米類 | 103.059   | 91.138    | -11.57% |

原表の総合は2025年7月100.088と2026年7月102.039、食料は99.605と103.122、米類は103.059と91.138だった。CSVを別の読込方法で取得し、十進数による割算でも変化率が一致することを確認した。米類の下落率が大きくても、食料全体では各項目の支出割合が異なる。価格だけから購入量や家計負担の変化は決められない。米類の山と谷の二点を事後的に選ぶ比較は行わず、同じ月同士を比べた。



比較図

#### 4. 限界

計算値は公式の公表変化率と区別する。指数の桁が多くても測定精度が高いわけではない。指数同士を単純平均して総合を作れない。季節調整はしておらず、短い期間から将来価格は予測しない。総合と食料と米類は包含関係があり独立した費目ではない。

検定は実施していない。公表集計表だけを根拠として、個々の世帯や施設について独立した標本があるとみなす検定は行わない。個票や標本設計別の分散情報は今回使用していない。大小の比較と統計的に有意な差を区別する。

#### 5. 再現資料

集計.csvに抽出値と計算列を保存した。results.jsonには結果と原本のSHA-256を記録。分析コードは03-household/analyze\_official.pyに共通処理を置く。検証コードverify\_official.pyでは別の表読込と十進数計算を使用した。準備フォルダの原本は変更していない。

#### 6. 業務で追加するデータ

自社の仕入れ品目に対応する価格指数と購入量をそろえれば、調達費の増減を価格と数量に分けて調べられる。米類の指数を全食品の仕入れ費に一律適用しない。

#### 参考資料

- ・ [総務省統計局 基準改定と参考値の注意](#)
- ・ [小数第3位の参考指数](#)

公表表を加工して作成。査読を受けた学術論文ではない。